

会議結果（要旨）

会議名	第10回 余市町地域公共交通検討委員会（第2分科会）
開催日時	令和4年10月17日 午後2時00分
開催場所	余市町役場 302号会議室
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長について（資料1） 3. 協議事項 郊外部において地域に親しまれる新たな公共交通の運行の検討（資料2） 4. その他 5. 閉会
議題	別紙のとおり
出された意見等（要旨）	<p>■委員長の選出 千葉委員を委員長に選出</p> <p>■協議事項 余市循環線の運行状況と今後に向けた検討</p> <p>【事務局から資料の説明】</p> <p>他の自治体における類似状況での運行例を例示的に説明。事務局としても現在どれにするべきかという案はなく、こういったものがあるという参考提示。（別紙1）</p> <p>実際に運行手法を決めるには交通空白地帯の交通需要を把握したうえで、持続可能性と他の交通手段との関係性等から勘案して検討していく必要がある。現状わかる需要としてはタクシー利用実態調査からの集計であるが（別紙2）、これだけではなく、もう少し詳細なヒアリングをしていく必要があると考えている。</p> <p>これについて分科会構成員各位の協力できる方法や聞いている声があればと考えている。</p> <p>【主な質疑等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通空白地帯の利便性向上を考えるにあたり、タクシー会社への配慮は必須。AI等の先端的なものに関しては必須ではなく、コストと需要による。 ・本格運行へのスケジュール感はどのようなものか。 <ul style="list-style-type: none"> ➡（事務局）令和5年度で期間を区切って実証運行をし、内容がよければ本格運行を予定している。 ・タクシー会社が細ると結局町民が困ることとなるので留意いただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ➡（事務局）可能な限り用途のかぶらないような設計をしたい。 ・介護機能のあるタクシーで割引をつけてみてはいかがか。 <ul style="list-style-type: none"> ➡（事務局）現状ではドライバーの高齢化もあり、既存のタクシー事業者の枠組みの中で介護機能のあるタクシーの運行は困難と聞いている。 ・AIやコミュニティバスは難しい。一方今行っているタクシー用のプレミアム付き商品券はとても好評で需要が多い。こういった施策がいいのではな

いか。また、駅前のスペースも色々なバスが入っている状況ではとても狭い。駅前交通体系の整備が必要。

- 利用したいが利用できない人がいて、配達サービスに頼っている人も多い。そういった人の利用できる公共交通は正直事業者として成り立つ形が思いつかないが、町に期待する。
- いわゆる交通弱者が増えている実感はある。公共交通だけでなく、まちづくり全体として考えていかなければならない
- タクシー運転手の高齢化が進んでいる中、都市圏ではタクシーの自己も多い。若いドライバーの確保が重要だろう。
 - ➡（委員）免許の取得年齢の問題もある。
- 免許返納者も増えている。タクシーチケットの無料配布のような特典をつくっては。
- お金がないからタクシーにのれず、足がないというのは違う。何かしら公共として移動手段の機会は作ってほしい。
 - ➡（委員）毎日であったり多頻度の運行でなくとも、週に数回といった設計でもいいのではないか